

2010/12/6

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

東京大学 文学部  
思想文化学科 宗教学宗教史学専修 4年  
長迫 智子（個人派遣）

### 【研究テーマ】

オーバーアマガウ村におけるキリスト受難劇の宗教的意義について

Über die religiös Bedeutungen der Passionsspiele Oberammergau

### 【派遣先での活動】

#### (1)派遣先の基本情報

【国名】ドイツ / Deutschland

【都市名】ミュンヘン及びオーバーアマガウ / München und Oberammergau

【研究機関名】バイエルン州立図書館 / Bayerische Staatsbibliothek

オーバーアマガウ博物館 / Oberammergau Museum

#### (2)派遣期間

2010/09/05～2010/09/15 ミュンヘンの州立図書館にて資料調査

2010/09/15～2010/09/17 オーバーアマガウにて、研究対象であるキリスト受難劇を観劇し、博物館にて調査

出発日:9月5日、帰国日:9月18日、総日数:14日

### 【主な研究成果】

#### (1)当初の計画の概要

私は現在、宗教学宗教史学専修において、卒業論文で宗教的儀礼論を扱う予定で調査を進めている。今回、そうした研究の一環として、世界的に最大規模を誇るオーバーアマガウ村のキリスト受難劇について、宗教的スペクタクル論、儀礼論の視点から考察することを目指し調査を行う方針であった。本年は十年に一度の受難劇上演年であるので、この受難劇を観劇して実際の演出表現を自分の目で確かめるとともに、上演年ごとのプロット比較、聖書との比較などを行うため資料調査にあたることを、当初の計画とした。

#### (2)実際に達成された成果

バイエルン州立図書館での資料収集においては、受難劇の上演年ごとの台本を11回分にわたり収集することが出来た。本受難劇においては、その脚本の改作などといった変化の中に、各

時代において受難劇がどういった宗教的意義を持っていたのか、また期待されていたのか、という要素が反映されている。よって、その歴史の変遷を追うことが非常に重要となると私は考える。そのため、上演開始年に近い、現存する最古の台本テキストである 1662 年版や、Ferdinand Rosner による完全オリジナルの韻文からなる 1750 年版、現在の脚本の雛形となった J.A. Daisenberger による 1890 年版などといった重要なテキストを得ることが出来た。また台本そのものが手に入らなかった年度についても、当時の評論など間接的な資料を得た。

またオーバーアマガウ村においては、受難劇に関する博物館を見学し、十年に一度である受難劇の公演を鑑賞した。劇内においては、本受難劇の聖書解釈の根幹である予型論的解釈がどう演出に反映されているかなど、実際の演出や音響、舞台装置、観客の様子などを観察することが出来た。単なる資料収集に留まらず、研究対象を実際に観察し、体感できたのは大きな収穫であった。

### (3) 今後の研究展望

収集した資料を基に、受難劇のプロットの歴史の変遷を追うことで、受難劇の宗教的意義を考えたい。また、こうした受難劇を含む神秘劇の発展の歴史、その他の神秘劇(降誕祭劇など)との比較、神秘劇のもととなった中世宗教劇について、などを考察することにより、宗教における儀礼の意義について一つの切り口を得られると考える。本研究は、学部における卒業論文として発表することを予定している。

以上